

# 実務経験のある教員による授業科目の配置

## 実務経験のある教員が担当する科目単位数

教養科目	人間科学部
	心身健康科学科
教養科目	3
専門科目	45
合計	48
設置基準上の標準単位数	13

## 実務経験のある教員による授業科目一覧及び実務経験と授業の関係

科目名	単位	年次	開講学期	担当教員	実務経験と授業の関係
野外活動・レクリエーション実践(バドミントン)	1	1	前期又は後期	天野 透	保健体育教諭として高等学校での授業の経験を活かし、バドミントンの技術やルールについて段階的な指導を行い、自主的にゲームを行うことで生涯スポーツにつながるような授業を展開する。
健康生活	2	1	後期	近藤 由里子	看護師として「入院患者の診療の補助」「療養生活の補助」など、医療チームで培った経験を活かし、ライフステージに応じた健康に過ごすための生活方法を教示する。
心身健康論	2	2	前期	松原 達昭	臨床医(内科医師)として大学医学部附属病院において勤務した経験を活かし、生活習慣病、感染症、遺伝性疾患、メンタルヘルス等に関して、具体的な事例を交えて講義を行う。
解剖・生理学(人体の構造と機能及び疾病Ⅰ)	2	1	前期	松原 達昭	からだの「しくみ」を構造面(解剖学)と機能面(生理学)から解説するにあたって、大学医学部附属病院において医師(教員)として勤務した経験を活かし、健全なからだの状態についての知識を教示する。
病気の成り立ち(人体の構造と機能及び疾病Ⅱ)	2	1	後期	今澤 正彦	臨床医として、様々な傷病の症例に接してきた実務経験を活かし、解剖学的・生理学的・病理学的な視点などから、各種の病態に至る仕組みや予防法について総論的・各論的に解説して、自身の健康管理のみならず将来においても社会に活かせる理解を涵養する。
学校保健	2	1	後期	後藤 多知子	養護教諭として小・中学校で勤務していた経験を活かし、学校教育と学校保健、学校保健経営における組織活動の実際や地域保健との関係など、現場での学校保健について教授する。
ヘルスアセスメント	2	2	前期	舘 英津子	看護師として病院(循環器内科、外科病棟)で勤務していた経験をもとに、体調不良の症状や外傷へのアセスメント方法について実際の様子を紹介しながら実践的な演習を取り入れた授業を行う。
養護概説	2	2	前期	後藤 多知子	養護教諭として小・中学校で勤務していた経験をもとに、養護教諭の歴史と職務内容の変遷を踏まえ、近年、養護教諭に求められる社会的ニーズ、具体的な職務内容および求められる資質・能力について講義する。
看護学概論	2	1	前期	舘 英津子	看護師として病院(循環器内科、外科病棟)で勤務していた経験や保健師として保健行政に携わった経験を生かし、看護学の理解において必須となるケアの考え方、また早期発見・予防活動に関連する事項について事例を挙げて講義をする。
基礎看護方法論	2	2	前期	舘 英津子	看護師として病院(循環器内科、外科病棟)で勤務していた経験をもとに、疾患や外傷、その対応について事例を挙げて講義をする。
健康相談・健康相談活動	2	2	後期	後藤 多知子	養護教諭として小・中学校で勤務していた経験をもとに、健康相談活動について、児童生徒の学校生活の様子、教職員や保護者及び学校内外の関係者との連携の現状を演習を通じて教授する。
養護活動実習	2	3	通年	後藤 多知子	養護教諭として小・中学校で勤務していた際に経験した事例(健康診断、救急処置、健康相談、保健指導等)を紹介し、学校現場で求められる児童生徒や職員に対する健康管理の知識及び技術を指導する。
				舘 英津子	看護師として病院(循環器内科、外科病棟)で勤務していた経験をもとに、体調不良の症状出現や外傷への処置やケア、家族への対応について実際の様子を紹介しながら実践的な演習を取り入れた授業を行う。
健康教育・保健室経営演習	2	3	後期	森 千鶴	学校現場で養護教諭として勤務していた経験をもとに、「養護教諭の職務の特質」や「保健室の機能」を理解させ、保健室経営について、具体的な内容を紹介しながら実践的な演習による授業を行う。

科目名	単位	年次	開講学期	担当教員	実務経験と授業の関係
健康管理学	2	3	前期	今澤 正彦	臨床医であると同時に産業医として、臨床現場の症例に接するのみならず事業場の労働者の健康管理にも関与してきた実務経験を活かし、内科学的・外科学的・予防医学的・公衆衛生学的な視点などから、人の健康管理とそのための法律・制度・統計に関する基本事項を解説して、自身の健康管理のみならず将来においても社会に活かせる理解を涵養する。
生活習慣病論	2	3	後期	今澤 正彦	臨床医として、各種の生活習慣病の症例に接してきた実務経験を活かし、解剖学的・生理学的・病理学的・内科学的・外科学的な視点などから、病因やその背景となりかねない生活習慣について総論的・各論的に解説して、自身の健康管理のみならず将来においても社会に活かせる理解を涵養する。
体育実技（陸上）	1	2	第1クオーター	天野 透	保健体育教諭として高等学校での授業や部活動顧問としての経験をもとに、陸上競技の技術やルールなどについて指導する。また、専門に取り組んできた種目でもあるため、競技者の目線で指導を行う。
健康スポーツ医学(運動療法を含む。)	2	3	後期	今澤 正彦	臨床医として、生活習慣病(糖尿病、高血圧など)、超高齢社会を背景とした各種疾患、スポーツに際して配慮すべき各種の状態、スポーツに伴う各種の外傷などの症例に接してきた実務経験を活かし、解剖学的・生理学的・病理学的・内科学的・外科学的な視点などから、健康スポーツ医学、運動生理学、各種の運動療法、運動障害に関する基本事項や注意事項を解説して、将来において社会に活かせる理解を涵養する。
教育職入門	2	1	後期	天野 透	高等学校での主任や管理職の経験から、実際の学校現場における教師を取り巻く状況や喫緊の課題について講義するとともに、教師の悩みや魅力についても取り上げ、実践教育を行う。
保健体育科教育法Ⅰ	2	2	前期	天野 透	高等学校における保健体育教員として、また主任や管理職として各種の研修や教育課程の研究に携わった経験をもとに、保健体育教員として必要な知識やスキルについて講義する。
保健体育科教育法Ⅱ	2	2	後期	鈴木 揚一	高等学校保健体育の教諭、県立高等学校の管理職及び愛知県教育委員会の安全教育担当の経験を活かし、学習指導要領における「体育科教育」の理解を深めるため、効果的な教材研究や授業方法について重点的に講義を行う。また、学習指導要領に準拠した学習指導案の作成や模擬授業の発表の指導を行う。
保健体育科教育法Ⅲ	2	3	前期	天野 透	高等学校における保健体育教員として、また主任や管理職として各種の研修や教育課程の研究に携わった経験をもとに、学校現場を想定した実践的な授業により、教科指導力の向上に結びつく授業を行う。
保健体育科教育法Ⅳ	2	3	後期	鈴木 揚一	高等学校保健体育の教諭、県立高等学校の管理職及び愛知県教育委員会の安全教育担当の経験を活かし、「体育科教育」を具現化するため、保健体育科教育法Ⅱを発展させた授業を行う。学習指導案では、「単元目標」「ねらい」及び「評価規準」を重視し、模擬授業では生徒の健康・安全に配慮した実践的な発表と振り返りの指導を行う。
教育相談(カウンセリングを含む)	2	2	前期	森 千鶴	養護教諭、管理職、スクールカウンセラーを経験した視点から、学校現場の具体的な場面や事例をもとに、養護教諭や学級担任として教育相談を身近に捉えることができるように実践的な演習を取り入れた授業を行う。
保健科教育法Ⅰ	2	2	前期	森 千鶴	学校現場での養護教諭としての経験を生かし、小学校体育(保健領域)の内容を踏まえて中学校の保健体育科保健分野までの指導案の作成を指導する。また、児童生徒の認識・思考、学力などを考慮した授業設計について教授する。
保健科教育法Ⅱ	2	3	後期	森 千鶴	学校現場での養護教諭としての経験を生かし、高等学校学習指導要領における保健体育科「科目保健」の背景となる学問領域との関係について理解させ、教材研究に活用する方法を講義する。具体的な授業を想定し、ICTを活用した授業設計による模擬授業の実施を通して実践指導を行う。
青少年期発達支援論	2	3	前期	後藤 多知子	養護教諭として小・中学校で勤務していた経験をもとに、青少年期の児童生徒の学校生活や家庭生活の様子を理解させ、近年の心身の健康課題について具体的にイメージできる指導を行う。
学校救急処置(臨床実習を含む。)	2	3	前期	近藤 由里子	看護師として病院での勤務経験を活かし、学校における救急処置の知識・技術・態度などを演習し、臨床実習を通じて現場での指導を行う。
運動プログラムの管理(運動療法(2)を含む。)	2	3	後期	今澤 正彦	臨床医として、生活習慣病(がん、糖尿病、高血圧、脂質異常症など)、超高齢社会を背景とした各種疾患(虚血性心疾患、変形性関節症、腰痛症など)などの症例に接してきた実務経験を活かし、解剖学的・生理学的・病理学的・内科学的・外科学的な視点などから、運動プログラム作成や運動療法実施に際しての基本事項や注意事項を解説して、将来において社会に活かせる理解を涵養する。
子どもの保健	2	3	後期	近藤 由里子	看護師として病院勤務した経験を活かし、胎児期から中学生に至るまでの時期の子どもの健康、発育、発達、病気、虐待などについての知識を教授し、小児救急の演習を行う。